

令和7年度後期

学校評価だより

令和8年1月27日

教育目標 自主・協和・錬磨

電話 0258-62-0987

F A X 0258-62-0483

Mail mitsuke.minami-jhs@edu-niigata.ed.jp

Homepage <https://www.city.mitsuke.niigata.jp/site/minami/>

今年度2学期の学校評価アンケートに御協力くださり、ありがとうございました。生徒や保護者の皆様のアンケート結果から、9月から12月の成果と課題をまとめました。対策を立てて推進するとともに、皆様の御理解と御支援を賜り、学校生活の充実と心身の健全な成長につなげて参ります。

評価は、目標値に対して、A：「達成」、B：「おおむね達成」、C：「課題がある」としています。

1 【知】 「教え合い、学び合いながら、より確かな学びを追求する生徒」

(1) 教育活動<授業改善、職員研修>



<教え合い、学び合いの推進>



(2) 成果目標

(3) 肯定的割合

(4) 評価

前期

後期

前期

後期

① 年3回の国語、数学、英語の基礎学力テストで、80点を上回る生徒が80%以上になる。

75.3%

72.4%

B

B

② 学校生活アンケート（7、12月）の「授業が分かる」生徒が90%以上になる。

88%

86%

B

B

③ 家庭学習強調旬間で、学年×10分間以上（1年生70分間以上、2年生80分間以上、3年生90分間以上）の家庭学習に取り組んだ生徒が80%以上になる。

1年 68.4%

1年 79.6%

2年 74.5%

2年 79.8%

3年 67.8%

3年 82.2%

B

A

④ 学期末の評価で、評価が3以上の生徒が80%以上になった教科が8割以上である。

10/15

20/27

B

B

教科達成

教科達成

(5) 成果と課題

① 成果として、次のことが挙げられます。

ア 家庭学習強調旬間で、家庭学習に取り組んだ生徒が増加しました。3年生を中心に放課後の図書室利用が増えました。このことにより、授業以外でも学習する習慣が身に付き、家庭学習増加につながったと考えられます。

イ 学期末の評価で、評価が3以上の生徒が増えました。単元（一定の教育目的のためにひとまとまりとなった教材や学習内容）の学習を始める前に、どのような試験や課題で成績を付けるか、どのくらいできるようになればよいかなどを、生徒に説明してから学習に入ること、生徒が目標をもって学習に取り組むことができたと思われま。また、授業や単元の最後に振り返りをさせることで、生徒自身が、自分自身を見つめ、できたことや分かったことを実感し、自分の学習内容の定着度を俯瞰的に確認することができました。

② 課題として、次のことが挙げられます。

国語、数学、英語の基礎学力テストで、80点を上回る生徒が減少しました。授業アンケートで、学習の仕方が身に付いていないと回答する生徒がいることから、どうやって学習をしたらいいのか分からない、または自分に合う学習方法を見付けられないといった生徒がいると考えられます。また、学習の取組状況の二極化も見られ、各御家庭との連携が必要な状況です。

(6) 改善点と今後の取組

① 授業改善

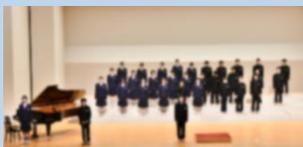
ア 学校生活アンケートで「授業が分かる」と答えた生徒が若干減少しました。ペアやグループで話し合う場面を多く取り入れ、他の生徒と自分の考えや思いを交流することで、互いに考えを深め合いながら学習内容の定着を図ります。

イ 足場的支援を用意し、生徒が自分に最適と判断した方法や教具を用いて問題を解いたり、課題に取り組んだりできるようにします。

② 基礎学力テスト対策

ア 教科担任と学年部が連携して、基礎テストに向けた学習に取り組むような働き掛けや声掛けを行います。

イ 学習方法を示し、授業中に実際にその学習方法で練習させたり、プレテストを行ったりします。

| 2 【徳】 目指す生徒像「他と助け合い、支え合い、豊かな心を求める生徒」 | | | | | | |
|---|-----------------------------|---|--|---|-------|---|
| (1) 教育活動 | | <体育祭> | <合唱コンクール> | <いじめ見逃しゼロスクール集会> | | |
| | |  |  |  | | |
| (2) 成果目標 | | | (3) 肯定的割合 | (4) 評価 | | |
| | | | 前期 | 後期 | | |
| ① 学校生活アンケート（7、12月）で、「自分の活動や行動を他者から認めてもらったことがある」の肯定的評価が全校生徒の80%以上になる。 | | | 81.6% | 79.0% | A | B |
| ② 学校生活アンケート（7、12月）で、「自分の仕事や役割を責任をもって果たしている」の肯定的評価が全校生徒の80%以上になる。 | | | 89.9% | 91.7% | A | A |
| ③ 学校生活アンケート（7、12月）で、「道徳の授業で、他者の意見を聞き、自分の考えをまとめることができた」の肯定的評価が全校生徒の80%以上になる。 | | | 88.3% | 89.0% | A | A |
| ④ 学校生活アンケート（7、12月）で、「学校、家庭、地域で自分から先に挨拶をしている」の肯定的評価が全校生徒の80%以上になる。 | | | 87.1% | 85.5% | A | A |
| ⑤ 学校生活アンケート（7、12月）で、「自他の人権を尊重し、いじめを許さない、見逃さないという気持ちをもって生活した」の肯定的評価が全校生徒の80%以上になる。 | | | 90.1% | 93.4% | A | A |
| アンケート | 質問項目 | | | 前期 | 後期 | |
| 見附市小中学校 共通アンケート | 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。 | | | 91.7% | 92.8% | |
| | 難しいことでも、失敗を恐れず挑戦していますか。 | | | 72.9% | 72.8% | |
| | 協力して何かをやり遂げ、うれしかったことはありますか。 | | | 89.0% | 91.7% | |
| 南中アンケート | 行事の際に目標を意識して行動することができた。 | | | 84.5% | 91.3% | |

(5) 成果と課題

① 成果として、次のことが挙げられます。

ア 「自分の仕事や役割を責任をもって果たしている」「協力して何かをやり遂げ、うれしかったことはありますか」「行事の際に目標を意識して行動することができた。」の肯定的評価の数値が、1学期よりも上がりました。体育祭や合唱コンクールでは、生徒に目標をもたせて主体的な活動を促し、リーダーを前面に出して活動を行いました。それらの活動が、仲間と協力することや目標に向かって仲間と頑張ることの大切さに気付くことにつながったと考えられます。

【徳育続き】

イ 「自他の人権を尊重し、いじめを許さない、見逃さないという気持ちをもって生活した」の肯定的評価の割合が、1学期よりも上がりました。いじめ見逃しゼロスクール集会での講演会等でいじめについて考えたことや仲間との関わりを通して、仲間を尊重する思いやいじめを許さない気持ちが育まれました。

② 課題として、次のことが挙げられます。

ア 「自分の活動や行動を他者から認めてもらったことがある」がB評価に下がりました。行事後に構成的グループエンカウンター「Positive Reframing（肯定的な振り返り）」を通して、お互いのよさや活動への貢献を伝え合ったりする活動を行いました。「肯定的な振り返り」活動後の様子やワークシートの記述を見ると、充実した様子が伺えましたが、学校評価の結果としては0現れませんでした。原因として、行事は良かったが普段の生活で「他者から認めてもらった」という印象が低いことや学校評価のアンケートを実施する時期が行事から離れていること、「他者から認めてもらった」の捉えのハードルが高く、謙遜していることなどが挙げられます。

イ 「難しいことでも失敗を恐れず挑戦している」と回答する生徒が8割に達しませんでした。学習や生活習慣など、自分の苦手な部分について、継続的に取り組んだり、経験のないことに取り組んだりすることが苦手な傾向があります。

③ 今後の取組・改善点

ア 行事後の構成的グループエンカウンター「Positive Reframing（肯定的な振り返り）」は継続しつつ、行事だけでなく日頃の授業や係活動、当番活動、友達との関わりなど善い行いを生徒同士で認めていく「肯定的な振り返り」を取り入れます。また、生徒同士だけでなく、教職員が普段の生活の中で、生徒の善い行いを認めていく声掛けを今まで以上に意識していきます。生徒の自己肯定感が高まり、より主体的な活動が行える活動を継続していきます。

イ 各学年や全校で人間関係づくりの活動やソーシャルスキルトレーニングを通して、適切な付き合い方を学び、いじめが起きない風土を培えるように支援していきます。

ウ 生徒の意見を幅広く取り入れて、主体的に企画し運営する行事や活動を取り入れます。新生徒会役員を中心に生徒が参画し、自治的に学校生活を送れるようにします。教職員は、共通認識のもと、生徒の主体的な活動を支え、活動の振り返りを丁寧に見取り、自己肯定感をもつことができるよう指導します。

| 3 【体】 自他の心身の健康維持と体力向上を持続させる意識の定着 | | | | | |
|--|-----------|------|--------|----|--|
| (1) 教育活動 <長距離走> <薬物乱用防止教室> <合同学校保健委員会睡眠セミナー> | | | | | |
|     | | | | | |
| (2) 成果目標 | (3) 肯定的割合 | | (4) 評価 | | |
| | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | |
| ① 学校生活アンケート（7月、12月）で、体力の向上を目指し、保健体育の授業や部活動、昼休みなどの時間に積極的に運動することができた生徒の割合が80%以上になる。 | 76.0 | 74.9 | B | B | |
| ② 学校生活アンケート（7月、12月）で、健康維持のために、23時、遅くても24時までには就寝できるように努力したり、工夫したりすることができた生徒の肯定的評価の割合が80%以上になる。 | 38.3 | 38.3 | C | C | |

【体育続き】

(5) 成果と課題

①課題として次のことが挙げられます。

A 体力向上

前期から後期にかけて、1.1%のわずかな減少が見られました。天候により屋外活動が難しくなることや、学習や学校行事が増えて忙しくなるなど、時期的な要因から、運動量がやや減りやすくなると考えられますが、全体としては多くの生徒が学校生活の中で積極的に体を動かしています。しかし、部活動の地域展開が進むにつれ、教育活動の中で体力向上を目指す機会はさらに少なくなると考えられます。日常生活の中で「自分でできる体力づくり」を意識する必要があります。

B 生活習慣

「健康維持のために23時、遅くても24時までには就寝できるよう努力・工夫できた」と肯定的に回答した生徒は38.3%と変化はありませんでした。保健委員会によるアンケートで、「夜0時を過ぎてから寝ることがありますか」という質問に対して、54.3%の生徒が「0時を過ぎない」と回答しましたが、約45%が「平日に0時を過ぎてから寝る日がある」と回答し、週に3日以上0時を過ぎる生徒が約20%いることも分かりました。習い事や家庭学習、スマートフォンの使用などにより、日によって就寝時刻が遅くなることもあり、就寝時刻にばらつきがある生徒も少なくありません。

②今後の取組・改善点

A 体力向上

ア 体育の授業でウオーミングアップに、持久力と柔軟性を高める基礎体力メニューを含めて取り組みます。

イ 部活動のある日には、筋持久力と柔軟性を向上させるサーキットトレーニングや動的ストレッチなどのメニューに取り組みるように、メニューを具体的に掲示します。

ウ 「家庭でできる簡単運動」を紹介します。

B 生活習慣

今年度は合同学校保健委員会で睡眠セミナーを実施し、睡眠の大切さについて理解しました。今後は自分の生活を振り返り、改善する取組を継続します。

| 4 【地域連携】 「主体的に地域に貢献する活動を通してふるさとを愛する心をもつ生徒」 | | | | | |
|--|---|-------------------|-------|--------|----|
| (1) 教育活動 <地域貢献活動> | | <手挙げ式1人1ボランティア活動> | | | |
|  | | - 4 - | | | |
| (2) 成果目標 | | (3) 肯定的割合 | | (4) 評価 | |
| | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| ① | 学校生活アンケート（7, 12月）で、「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦した」の肯定的評価が全校生徒の80%以上になる。 | 72.9% | 72.8% | B | B |
| ② | 学校評価アンケート（7, 12月）で、「人の役に立つ人間になりたいと思う」の肯定的評価が全校生徒の80%以上になる。 | 91.7% | 92.8% | A | A |
| ③ | 学校生活アンケート（7, 12月）で、「自分の住む地域に貢献したいという気持ちを持ち、地域貢献活動等に積極的に参加することができた」の肯定的評価が全校生徒の80%以上になる。 | 66.7% | 63.7% | B | B |
| ④ | 学校生活アンケート（7, 12月）で、「自分の住んでいる地域や見附がすきか」の肯定的評価が全校生徒の80%以上になる。 | 90.6% | 88.9% | A | A |

【地域続き】

| | | | | |
|---|-------|-------|---|---|
| ⑤ 学校生活アンケート（7, 12月）で、「自分が住む地域の様子（地域の特徴や行事、危険個所など）について理解を深めた」の肯定的評価が全校生徒の80%以上になる。 | 77.9% | 83.0% | B | A |
|---|-------|-------|---|---|

(5) 成果と課題

① 成果として、次のことが挙げられます。

ア 生徒は、人の役に立ちたいという気持ちで、積極的に地域貢献活動に取り組みました。

イ 「自分の住んでいる地域や見附がすき」と回答した生徒及び、「自分が住む地域の様子（地域の特徴や行事、危険個所など）について理解を深めた」と回答した生徒がともに80%を超え、自分たちの住む地域のよさに気づくことができました。

② 課題として、次のことが挙げられます。

ア 「1人1ボランティア活動（手挙げ式ボランティア）」では、地域貢献活動を除き、1回以上の地域や学校ボランティア活動に参加した生徒は、71%でした。（12月実施の生徒会実施のアンケート176名が回答）。生徒会を中心にボランティア活動への参加状況を視覚化した「ステ木」を掲示し、活動への啓発を行いました。「ステ木」の取組に「素敵な活動である」「分かりやすくてよい」など、生徒8割が高評価しています。しかし、3割の生徒がボランティア活動に参加していないことが課題として挙げられます。

イ 「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦した」生徒が、72.8%という結果で、前期と同様の評価でした。

③ 今後の取組・改善点

ア 「1人1ボランティア活動（手挙げ式ボランティア）」に参加した生徒の体験や感想を発表したり、生徒がボランティア活動の魅力や意義を感じたりできる機会をつくり、全校生徒が主体性をもって参加する意識を醸成します。そのために、次のような取組が考えられます。

（ア）生徒の集いで、ボランティアに参加した生徒が感想を発表する。

（イ）生徒会総務局を中心に、ボランティアの啓発に取り組む。各委員会の役割を明確にし、広報活動を充実させる。

イ 学級活動や教科指導を通して、教職員が生徒の失敗を許容する指導の構えをもちます。生徒が心理的安全をもって自分の考えを述べたり、新しいことや改善するための提案をしたりできる学級風土や授業づくりに取り組みます。

ウ 総合的な学習の時間におけるアントレプレナーシップ教育を通して、自分で企画したり、運営したりする機会を設けるとともに、取組に対する自己評価を通してチャレンジ精神を育みます。キャリアパスポートを活用して、3年間の取組の履歴を残すとともに、学期・学年ごとの振り返りを通して、次の取り組みの役割の見通しをもてるよう支援します。

やり方が分からないことや初めてのことで、その場で指示されたり任されたりすることに対応することへの不安や心配を、自分でよく理解して他者に伝えることも必要だと考えます。このような表現のスキルを身に付けること、伝えてもよいのだという意識をもってよいことを学活等で指導します。

